

第一章 調査結果概括

横田 雅弘・太田 浩・中本 進一

1. はじめに

国際交流基金のフェローシップ事業は、基金設立以来、海外との人材育成と次代の交流の担い手育成において多くの実績を築き、その対象層も初期の文化人・日本研究者を中心とするものから、政策形成関係者やNPO関係者等を含む幅広い層に拡大してきた。今後従来以上に効果的なフェローシップ・プログラムを供給し、応募者のニーズに応えていくためには、国内・海外においてどのようなプログラムが存在するのかについて、比較研究を行う必要がある。

しかしながらフェローシップに関しては、どの位の数のプログラムが存在し、どれ程の金額が給付されているのかという正確なデータを国の内外の全ての機関において把握することは、非常に困難な作業である。また、それぞれのプログラムが毎年定期的に助成金を給付しているか否かを調査することは、さらに困難を極める。しかるに、個々の応募者がそれぞれの意にかなったプログラムを独自で探し求めるとすれば、それは余りに時間を要する作業となる。しかも応募者にとって最も必要とするのは最新の情報であるにもかかわらず、各プログラムの募集要項の配布時期、募集期間はそれぞれ異なるため、常に最新の情報を応募者側で把握し続けることは極めて困難である。以上の点を考慮すると、今回、国際交流基金が自らのネットワークを利用し、海外の駐在事務所の協力を得て日本と10カ国（米国、カナダ、ブラジル、中国、韓国、タイ、フランス、英国、ドイツ、エジプト）におけるフェローシップ・プログラムの本数、目的、活動内容、申請資格、採用件数とその人数等にわたり広範囲な調査を行ったことは意義がある。中でも今回調査の対象は主要なものに限定し、対象者層を以下の5分野に絞ったことで、各国の招聘・派遣の両面におけるプログラム比較が可能となった。

1. 研究者（大学および研究機関に所属する者。大学の場合は、大学院博士後期課程以上）
2. 芸術家（作家、音楽家、画家、彫刻家、舞台演出家等）
3. 文化関係専門家（脚本家、学芸員、文化財専門家等）
4. 実務家（政府機関スタッフ、NGO・NPO関係スタッフ、法律専門家等）
5. ジャーナリスト

Kalas (1987) は、多数の研究助成金を給付するプログラムを比較し評価する際、如何なる基準を持って評価するかにより結果が異なってくると指摘する。つまり比較的非公開で行われる組織内の評価にとどめる場合、ひとつのプログラムに対する評価を外部の相談者に求める場合、さらにはサンプルを無作為に抽出し、全体的な評価を行う場合等様々な評価法が考えられる。今回は、一般的に「フェローシップ」と呼ばれている海外での研究を可能とする期間1ヵ月以上の個人に対する研究奨学金プログラムに限定し、在外の基金事務所で集約されたデータをもとに、日本の主要なフェローシップ・プログラムと海外のプログラムを比較分析することにより、今後のプログラムのあり方を模索するという趣旨で調査を開始した。

集約されたデータシートによる各国の比較分析を行う前に、我々の調査の参考とするために、この分野における過去の研究（文献）をレビューした。その結果、フェローシップ・プログラムに応募する者、つまり応募者の見地に立つことでどのような事実が浮き彫りに

なるかが重要であると考えた。多数存在するプログラムの中で、応募者からみて最適なプログラムを探し求める際に考慮すべき基準に関しては、米国のケースとして、Margolin (1983) がThe Individual's Guide to Grantsの中で以下のように述べている。

先ずフェローシップの最近の傾向とプログラムにおける活動条件の束縛性・自由性があげられる。つまり応募者にとって、プログラムを利用することでどの程度自由な研究活動を行うことが出来、将来を見据えた上で意義のある研究成果が得られるかどうかという点である。次に、採用される確率はどの程度見込まれるのかという点である。これについては、プログラムの過去における受給者たちの情報などが鍵になり、応募者の立場からは、採用率や前年に採用された応募者が再度申請できるか否かも気に留めるべき要件となる。さらに、誰の判断によって採用が決定されるのか、またどのようなプロセスを経て、申請者・申請書類が審査されるのか、その審査項目・期間なども情報として入手したい事項となる。しかもフェローシップ支給機関の設立形態や趣旨等の差異に従い、申請の際の文体(スタイル)なども変わってくる。

このような事項が応募者にとって重要な情報であるとするならば、当然のこととして、フェローシップ支給機関の募集要項において、どの程度採用に関する情報が公開されているかが重要なポイントとなるのは明らかである。

それでは、フェローシップ支給機関間にどの程度プログラムや運営方法の差異が存在するのであろうか。Margolinによれば、設立形態により次の3つのカテゴリーに分類され、それぞれに特色があるという。

(1)政府関係機関(地方自治体や政府系外郭団体も含む)

プログラムの募集に関する情報が最新であるかどうかは鍵となる。経済状況の変化に伴い、実際の採用状況、給付額や内部事情(審査基準等)が異なってくる事が想定される。また、政府系外郭団体のプログラムは政府から資金が提供されていることから、社会のニーズに合わせてプログラムが組まれることが多い。政府関係機関のプログラムをみると、研究支援そのものより、ミッション(派遣)を目的としたものが多く、後に他の研究者が実施可能なモデルケースとしての研究成果を求める傾向がある。

(2)財団等

民間公益団体や非営利団体などが運営しているプログラムは、団体の理事や主宰によって運営がなされている。またプログラムの種類も多岐にわたり、社会、教育、慈善事業等における活動の支援・擁護を目的に設立されているものも多い。つまり公共性の高い研究成果を求めているとも言える。財団の中には外部の企業から派遣・委任された構成員とともに委員会を組織しているところもある。その他の特色としては一般的に競争率が非常に高く、採用されるのは毎年6~7%に留まっているというデータもある。また、財団独自のfunding style/policyがあり、教育関連のプログラムが半数以上を占めている。各財団の委員会および理事会を構成しているスタッフや応募者の審査に関わるメンバーに、専門家がどの程度関わっているかでその財団の特色が決定される。

(3)企業団体

企業団体がフェローシップを支給する際、当然のことながら企業の利益に繋がる研究に投資する傾向があることは否定できない。米国において、企業は純収益の5~10%を公益寄付金控除の対象としているが、現実には1%ほどの金額に留まっている。しかしながら、財団等が支給する助成金に比べて、近年伸び率が高まってきているの

も事実である。但し、問題点としては採用されるケースが従業員や元従業員、その家族という非常に限られたプログラムが多く、例え広く公募を行っていたとしても募集要項等の情報を得るのは困難であることが挙げられる。

このように、フェローシップも支給機関の性格によって差異が認められることがわかった。各プログラムを比較する際もこういった違いを念頭に置く必要がある。

(参考資料)

Margolin, Judith B. (1983), *The Individual's Guide to Grants*, New York: Plenum Press

Kalas, John (1987), *The Grant System*, New York: State University of New York Press

McInay, Dennis P. (1991) *Foundations and Higher Education: Dollars, Donors, and Scholars*, New York: George Kurian Books

今回の調査では、各国の主要なフェローシップ・プログラムのデータが集められた。ただし、集約されたデータは情報として公開されているものに限定された。

- 1) プログラム名称
- 2) 実施・運営機関名
- 3) プログラム趣旨
- 4) 対象者層
- 5) 申請資格
 - ・国 籍
 - ・対象者年齢層・キャリア
 - ・学 位
 - ・外国語運用能力
 - ・その他
- 6) 対象分野
- 7) 対象課題
- 8) 給付期間
- 9) 給付経費
- 10) 義務的業務
- 11) 実施場所の指定
- 12) プログラム年間予算額
- 13) プログラム年間採用人数

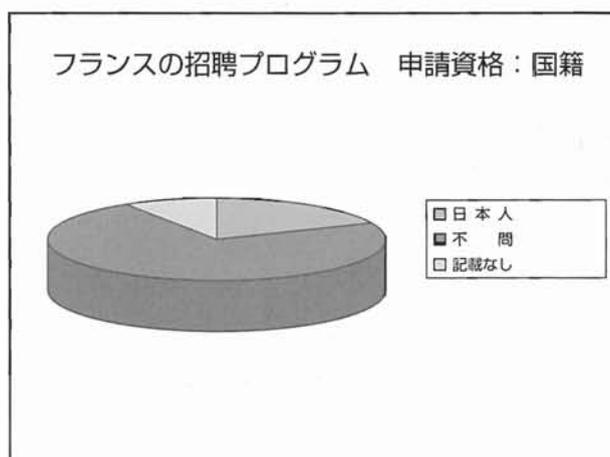
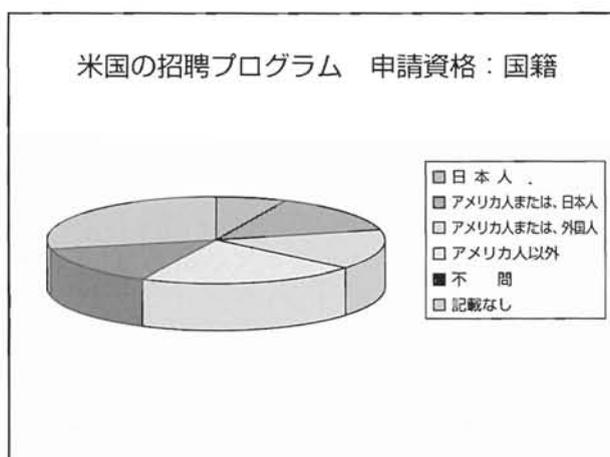
調査の結果、プログラムによっては殆ど全ての事項が情報公開されているものもあれば、採用人数をはじめ「不明」という回答が多いプログラムも数多く見受けられた。特にプログラム年間予算額と年間採用人数に関しては、情報公開を行っている機関が少なく、公開を行っている機関であっても日本人の採用者に関するデータを区別して公表しているものはほとんどない状態であった。また、比較の対象となるプログラム総数(サンプル数)も、統計的処理をするには必ずしも十分であるとは言えなかった。そこで、次の3点に絞って全体的な傾向の把握を試みた。

- 申請資格から見るプログラム比較：米国、フランス、カナダ、日本のプログラムを網羅し、招聘・派遣の両面における申請資格の分析を行い、併せて、4ヵ国における招聘・派遣のプログラム本数比較から見るトレンド分析を試みる。
- 趣旨から見るプログラム比較：フェローシップの対象者層を各プログラムの趣旨とみなし、10ヵ国における招聘・派遣プログラムの対象者層別総数を比較することにより、トレンド分析を行う。
- 2国間（日本と特定国間）のバイラテラル比較：日本とある国の2国間において、招聘・派遣の両面から、相手国を対象としたプログラムの本数、採用人数等を比較することにより、知的・人的交流における日本と各国の関係（外交政策上の位置づけ）について比較分析を試みる。

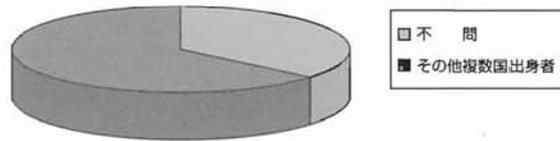
2. 申請資格から見るプログラム比較（米国、フランス、カナダ、日本におけるフェローシップ・プログラム申請資格の比較分析）

(1)招聘プログラム（米国：14本、フランス：11本、カナダ：8本、日本：20本）

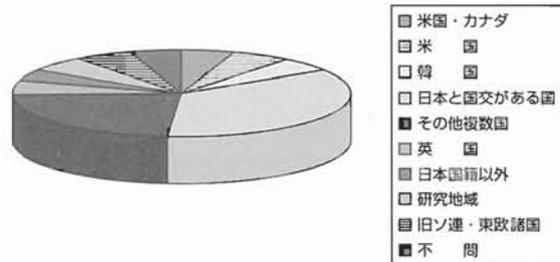
イ. 国籍：申請資格として特定の国籍を求めているか否かを比較



カナダの招聘プログラム 申請資格：国籍



日本の招聘プログラム 申請資格：国籍



米国の招聘プログラム14本を見ると、国籍について「不問」あるいは「記載なし」というものが6本あり、事実上日本人が申請できるプログラムは10本存在した。フランスの招聘プログラム11本では、国籍について「不問」あるいは「記載なし」というものが9本あった。日本人が申請できるプログラムは10本存在した。但し日本だけを対象とするものは2本であった。カナダにおいては、8本中3本が国籍を「不問」としており、半数近くのプログラムにおいて日本人も申請対象者に含まれていることがわかった（「その他複数国出身者」を招聘するプログラムを含む）。日本では、北米、英国をはじめ、旧ソ連、東欧諸国や韓国など特定の国や地域を指定しているものが20本中9本あったが、「日本と国交がある国」など特定の国籍を要求していないものも11本あった。申請資格としての国籍に関して、フランス(8/11)は「不問」としている割合が、米国(6/14)、カナダ(3/8)、日本のプログラム(1/20)と比較して高く、国籍に関係なくフェローを招聘している傾向が強いことがわかった。

ロ. 対象分野：申請資格としてどのような対象分野を特定しているかを比較

米国の招聘プログラム：対象分野	
行政・政策	1
学校教育	1
ジャーナリズム	2
人文・社会科学	2
芸術・建築	4
複数記載	3
記載なし	1
計	14

フランスの招聘プログラム：対象分野	
人文・社会科学	3
複数記載	1
不問	5
その他	1
記載なし	1
計	11

カナダの招聘プログラム：対象分野	
学術研究（社会・人文科学）	6
芸術・建築	1
複数記載	1
計	8

日本の招聘プログラム：対象分野	
アジア関係	1
日本文化、日本語研究	2
人文・社会科学及び自然科学の全分野	4
人文社会学	6
芸術・建築	5
記載なし	2
計	20

3国における招聘プログラムの対象分野を比較してみると、カナダは学術研究のプログラムがその大半を占めていたが、米国では行政機関職員向けから芸術まで広範囲のプログラムが用意されていた。フランスでは対象分野を「不問」とするプログラムが11本中5本あり、分野を特定せずに広くフェローを招聘しているプログラムの割合が高かった。日本では、「日本文化・日本語研究」、「アジア関係」という地域性に関わる分野を指定したものもあるが、「人文・社会科学及び自然科学」、「人文・社会科学」のような広範囲に学術研究を対象とするプログラムが約半数を占めた。ただ、「芸術・建築」の割合も高く、全

体としては分野的にバランスの取れたプログラム本数といえる。

ハ. 外国語運用能力：申請資格として招聘する国の言語能力を求めているか否かを比較

米国の招聘プログラム：外国語運用能力	
必 要	7
不 要	1
記 載 な し	6
計	14

フランスの招聘プログラム：外国語運用能力	
必 要	3
不 要	4
記 載 な し	4
計	11

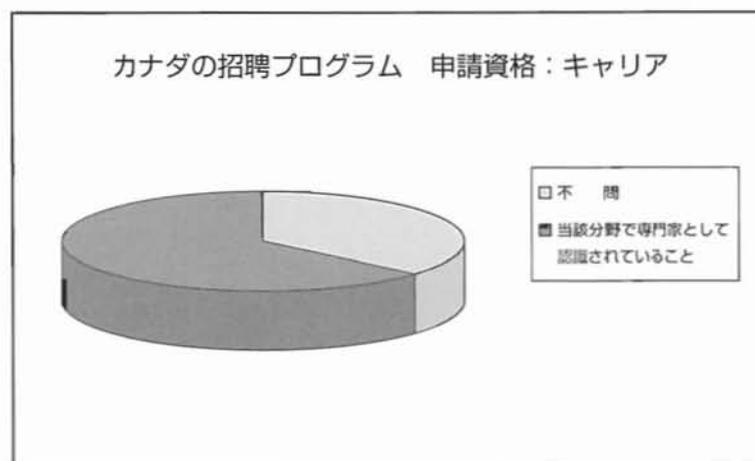
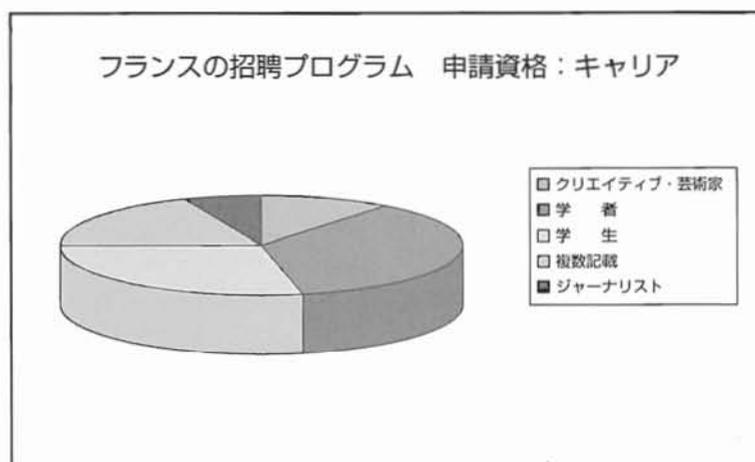
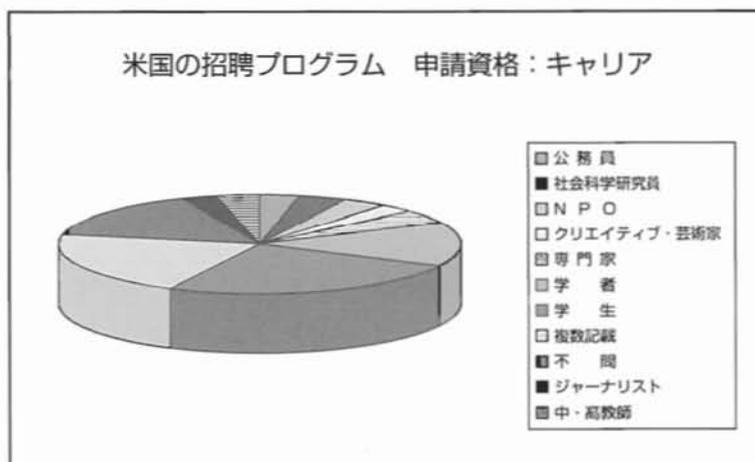
カナダの招聘プログラム：外国語運用能力	
必 要	6
記 載 な し	2
計	8

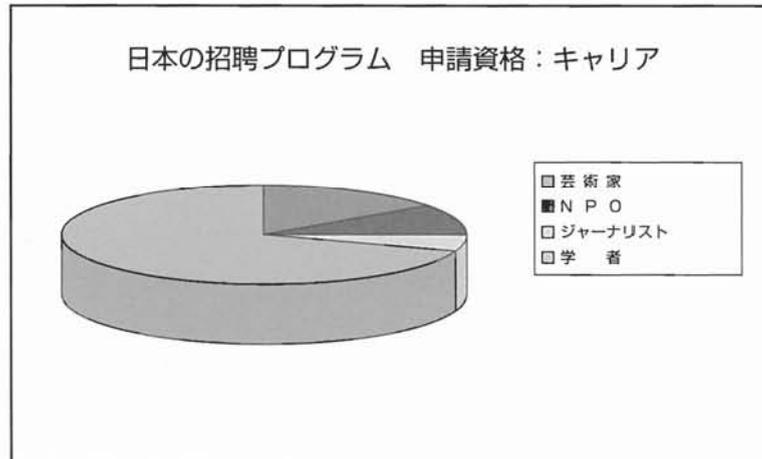
日本の招聘プログラム：外国語運用能力	
必 要	15
不 要	4
記 載 な し	1
計	20

カナダと日本では4分の3（それぞれ6/8と15/20）、米国では半数（7/14）のプログラムが外国語（英語）運用能力を求めているのに対し、フランスでは11本中3本しか仏語運用能力を求めていなかった。これはフランスでも高学歴者を中心に英語を使える人が多くなり、招聘側であえて仏語を要求する必要がなくなっているためではないかと推測できる。

(2)派遣プログラム（米国：28本、フランス：15本、カナダ：11本、日本：20本）

イ. キャリア：申請資格としてどのような対象者（キャリア）特定しているかを比較（個々のプログラムでは年齢やキャリア年数などを要求しているものもあるが、ここでは一般的な職業名目を属性とした）





カナダでは「不問」あるいは「当該分野で専門家として認識されていること」と対象者（キャリア）の枠組みを特定せずに派遣フェローを募っているが、米国、フランス、日本においては、対象者（キャリア）を特定したプログラムがほとんどであることが分かった。米国は、ジャーナリスト、実務者から学者まで対象者（キャリア）の多様性が際立っていた。特に学生（大学院生）を対象としたものが多いのが特徴的であった。一方、日本では「学者」の割合(14/20)が他の国に比べてきわめて高く、学生を対象としたものがなかった。この学生対象プログラム数の日米の違いは、大学院生をすでに研究者の一部（駆け出しの研究者）とみなす米国と大学院生を研究者とみなさない（あくまで学生）日本の学術文化の違いを反映しているといえる。

- ロ. 外国語運用能力：申請資格として何らかの外国語運用能力を要求しているか否かを比較

米国の派遣プログラム：外国語運用能力	
必 要	7
不 問	6
記 載 な し	15
計	28

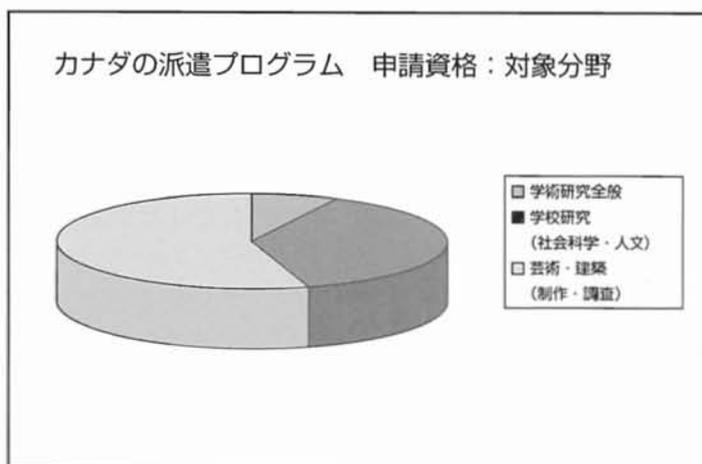
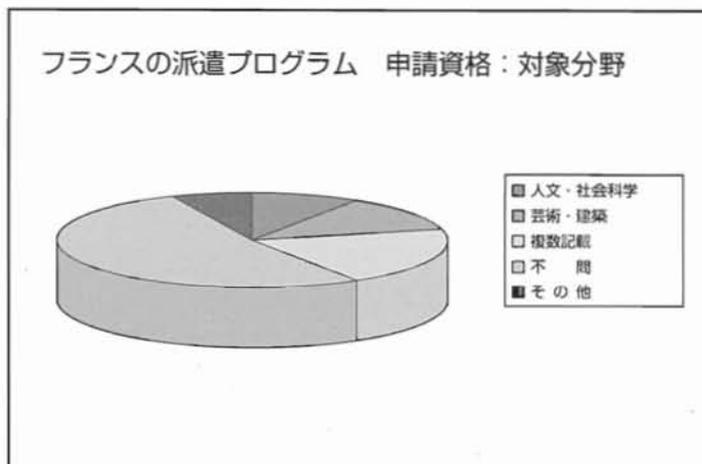
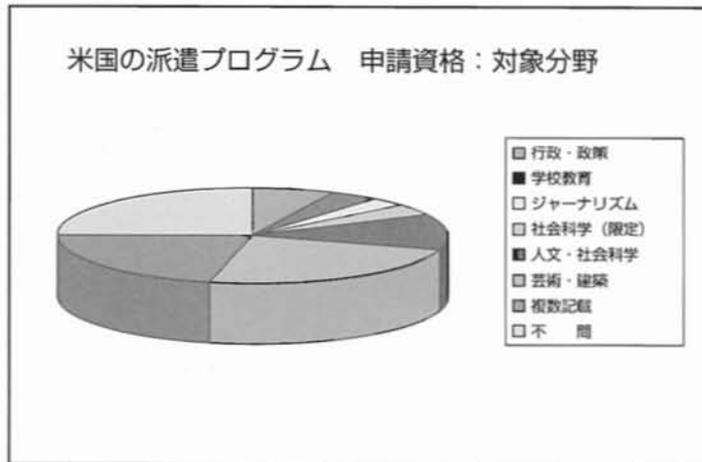
フランスの派遣プログラム：外国語運用能力	
必 要	2
不 問	9
記 載 な し	4
計	15

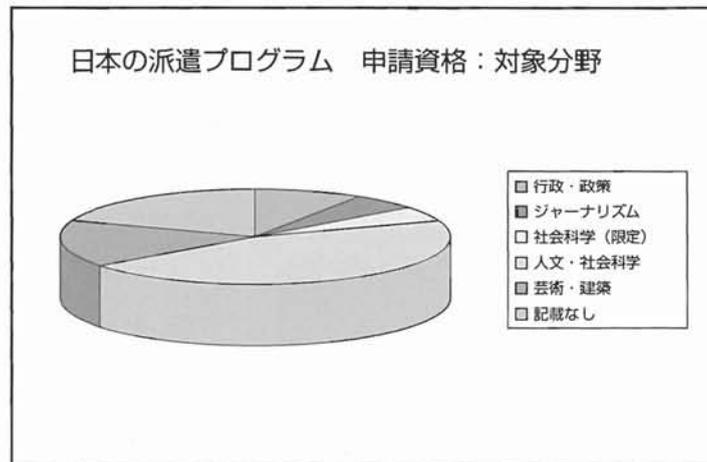
カナダの派遣プログラム：外国語運用能力	
不 問	11
計	11

日本の派遣プログラム：外国語運用能力	
必 要	15
不 問	2
記 載 な し	3
計	20

3カ国の派遣プログラムを見ると、フランス、カナダにおいては「不問」が大半（それぞれ9/15と11/11）を占めていた。それに対して米国と日本の場合は、明確に外国語運用能力を求めているプログラムの割合が高かった（それぞれ7/28と15/20）。但し、具体的な外国語運用能力の条件に関しては、プログラムが課している活動内容と目的により異なっていた。例えば、Nichiei Pathfinding Opportunity Programなどは教育・社会福祉の分野でNPO職員などに活動機会を与えているが、そのために日本語が必要であることを申請条件としている。またFulbright Scholar Program, Japan Grant for U.S. Graduate Seniorsなども大学レベルで日本語を2年間以上学んだ者、またはそれと同等の日本語能力を有する者と非常に具体的な要件を申請条件に組み入れている。

ハ. 対象分野：申請資格としてどのような対象分野を特定しているかを比較





フランスでは、複数の分野にまたがっているものや「不問」のプログラムが大半を占め、米国も同様のものが半数近くであった。ただし、米国の場合、他の半数は実務者から学術関係まで多様な分野を対象とするプログラムが存在した。カナダは学術分野と芸術・建築分野がほぼ半数ずつであった。日本では、人文・社会科学を対象とするプログラムが半数近くを占めていたが、行政機関職員、ジャーナリスト向けのプログラムもあり、米国に次いで対象分野の多様性が認められた。

(3) 招聘・派遣のプログラム本数比較から見る分析

招聘・派遣のプログラム本数を比較すると、3ヵ国（米国－14：28、フランス－11：15、カナダ－8：11）とも招聘プログラムより派遣プログラムのほうが多かった。これに対し日本のプログラムは全体としては同数（20：20）であったが、国際交流基金を除けば7割以上が招聘プログラムであった。

米国はプログラムの多様性、いわゆる様々な対象分野や対象者をカバーするプログラムが提供されているという点では、優れているといえる。但し注意しなければならないのは、上記の比較があくまで国毎に招聘・派遣プログラムの本数を全体像として捕らえたものであり、個々のプログラムの特徴を考慮に入れたものではない。現に、「第三章国別概要」にもあるとおり、米国において、招聘のフェローシップ・プログラムの本数は必ずしも多いというわけではない。しかも学者・研究者、博士課程学生に限るとフルブライト・プログラムが中心である。

フランスの招聘・派遣プログラムを見ると、メディア交流も含め、かなり多岐にわたるプログラムが提供されている。芸術面では150名を国や地域を限定せず派遣し、そのうち日本関係も1割近く占めていた。また、A F A Aによる派遣プログラム（アーティスト・イン・レジデンス・プログラム）が毎年一定の採用枠を日本向けに確保しており、日本との交流に力を入れていることも特記すべき事項である。

カナダの招聘・派遣プログラムは全体的に対象分野や対象者を特定しないものが多かった。招聘プログラムにおいて、近年日本関係の採用実績があるものは政府奨学金のみであった。さらに派遣プログラムは競争率の高いプログラムが多く、カナダ人の日本研究者が支援されたという実績は乏しかった。

3. 趣旨から見る海外プログラム比較（10ヵ国におけるフェローシップ対象者層の比較分析）

それでは、各国のプログラムはどのような趣旨でプログラムを運営しているのだろうか。今回、国際交流基金が行った調査で集約されたデータを見ると、各プログラムとも「対象者層」が示されている。そこでこの対象者層を各プログラムの趣旨とみなし、10ヵ国における招聘・派遣プログラムの対象者別総数を比較し、世界的なトレンド把握を試みた。

下表で明らかなように、研究者・博士論文執筆者対象のプログラムはほぼ全ての国に存在する一方で、芸術関係者向けのプログラム数を比較すると欧米諸国（35）とアジア諸国（11）の間に大きな差が見られた。大学院博士課程向けのプログラムは韓国（11）、ドイツ（10）、米国（9）、フランス（9）などで多く提供されていた。実務者・政府職員向けのプログラムはフランス、カナダ、ブラジル、韓国には存在しなかった。

米国では、ジャーナリストが政府からの資金を受給することに対する自己規制が強いため、ハーバード大学ニューマン・フェローシップ（年間採用人数：25名程度）とフルブライト・ジャーナリスト・プログラム（年間採用人数：3名程度）が主たるジャーナリスト向けのプログラムであった。

英国では、アーツ・カウンシルやブリティッシュ・カウンシルが提供する奨学金プログラムが中心であり、「フェローシップ」という名称でのプログラムは少ない。ブリティッシュ・カウンシルのChevening Scholarship Programmeは英国政府の外交戦略に沿って若手の指導者養成を目的とし、最も権威のあるプログラムとして世界的に知られている。国際交流基金や大和日英国際交流基金の日本関係プログラムがいわゆるフェローシップと銘打っている。これは、日本と英国における「フェローシップ」の解釈、定義の違いを反映したものかもしれない。

韓国では、招聘プログラムの殆どが韓国学（韓国研究：人文・社会）を奨励するものであることと、研究者向けのフェローシップ給付額が十分ではないことが指摘される。また Korea Foundationの各種プログラム（主として学者・研究者向け）と韓国政府招請外国人奨学生制度は、フェローシップとしての実績があるが、共に給付額が十分でないことが指摘される。文化・芸術関係、ジャーナリストを対象としたフェローシップ・プログラムは少ない。

中国では、研究者対象と博士論文執筆者対象の派遣プログラムがそれぞれ1本ずつ、招聘プログラムが同様に1本ずつ用意されているが、いずれも中国政府によるものである。派遣プログラムの中国国家留学基金助成を利用し昨年度3,025名が海外で研究・研修をおこなった。また、中国政府奨学金は中国での研究・研修をするフェローを支援する招聘プログラムで、年間採用人数は約6,000人と規模が大きい。この人数を比較すると中国は招聘に力を入れていることがわかる。

タイにおける派遣プログラムはタイ政府奨学金のみであるが高校留学から博士課程留学まで範囲は広い。「第三章国別概要」の報告によるとこのプログラムで日本に留学した高校から博士課程までの合計人数は2002年度で546人であった。

以上をまとめると、フェローシップ・プログラムにグローバル・スタンダード的な傾向が見受けられる。まず研究者、博士課程論文執筆者を対象とした学術研究分野のプログラムを各国とも優先的に充実させていることが挙げられる（2項目合計で全体の約58.2%）。言い換えると、若手研究者の育成がフェローシップ・プログラムの趣旨としてはもっともポピュラーなものであると言う事が出来る。次に多数実施されているのが、芸術関係の若

手育成や交流に関するプログラム（17.8％）である。それに比して、実務者・政府関係職員（8.4％）、文化関係者（8.4％）、ジャーナリスト（7.3％）の数は少ない。今後は学術研究分野だけでなく、これらの分野でのプログラムの充実が望まれるところではあるが、ジャーナリスト向けのプログラムに関しては、資金受給に関する規制や制約が多いのも事実であり、各国とも短期的にプログラム数を増やすことは困難かと思われる。この種のプログラムの促進については運営上の特別な配慮（法的整備や関係機関の理解）が必要となる。

データシートから見る海外の対象者別プログラム本数（招聘・派遣合計）

国名	研究	博士	芸術	実務	ジャー	文化	合計
米 国	22	9	14	15	8	9	77
フランス	14	9	6	0	1	0	30
カナダ	5	6	8	0	0	1	20
ドイ ツ	15	10	3	1	2	1	20
英 国	3	2	4	1	2	2	14
ブラジル	8	6	5	0	0	2	21
韓 国	7	11	1	0	6	3	28
タ イ	2	2	1	2	1	2	10
中 国	2	2	0	1	0	1	6
日 本 〔基金〕	24 〔11〕	7 〔2〕	8 〔3〕	5 〔3〕	3 〔2〕	3 〔1〕	50 〔22〕
合 計	102	64	50	25	23	24	288

〔 〕内数は国際交流基金のプログラム数を内数で示す。

募集対象者

研 究：学者・研究者

博 士：博士論文執筆者・博士号取得希望者（大学院博士課程後期以上）

芸 術：画家・音楽家・彫刻家・作家・舞台演出家・映画監督・批評家

実 務：政府機関スタッフ（議員スタッフを含む）・民間非営利団体スタッフ・法律専門家

ジャー：ジャーナリスト

文 化：文化関係専門家（学芸員、文化財専門家、司書等）

注 意：対象者が複数分野に存在する場合、申請可能な分野ごとにプログラム本数を数えている。
またデータシートでキャリア不問とある場合は対象者層ごとにプログラム本数を数えている。

4. 2国間（日本と特定国間）のバイラテラル比較（知的・人的交流における日本と各国の関係についての比較分析）

- 日本とある国の2国間において、招聘・派遣の両面から、お互いに相手国を対象としたプログラムの本数、採用人数等を比較することにより、知的・人的交流における日本と各国の関係について比較分析を試みる。この比較分析により、日本あるいは当該国が双方に相手国をパートナーとして外交政策上どの程度重要視しているか、また当該国における招聘・派遣プログラムの地域格差などが見えてくるとと思われる。
- ・ドイツー日本：両国において、研究者を対象にお互いの国を特定した派遣プログラムがある。但し、プログラム本数は少なく、また需要も高いとはいえないのが現状である。実績のあるプログラムとしては、DAAD、ドイツ日本文化研究所、日本学術振

興会など公的な機関によるものである。一部で国際交流基金や文化庁による芸術家向けのプログラムは存在するものの、文化関係専門家、実務家を対象として両国での交流に実績を持つプログラムは少ない。

- ・タイー日本：両国間で双方の国を特定した招聘・派遣プログラムは存在しない。タイからの訪日目的を見ると、ほとんどが研究・調査で来日するタイ人のために用意されたプログラムであり、国際交流基金等日本側の政府関連機関からのフェローシップあるいは奨学金受給者として招聘されている。「第三章国別概要」の報告にもあるとおり、帰国後政界、官庁、大学、研究機関等の要職についているものも多い。一方、日本からはアジアを派遣対象とするプログラムが多数存在するがタイを特定の対象国としているものはない。
- ・英国ー日本：「第三章国別概要」の報告にもあるとおり、英国では個人を対象に国際交流を目的とするフェローシップ・プログラムは少ないようである。また英国から日本への招聘プログラムである大和日英基金を除いて、両国間で双方の国を特定した招聘・派遣プログラムは存在しない。前述のとおり、ブリティッシュ・カウンシルの Chevening Scholarship Programme や大和日英基金などが両国の交流の中心であるが、共に採用人数等は明らかではない。
- ・ブラジルー日本：両国とも研究者、芸術関係者を対象とするプログラムが充実しているものの両国間で双方の国を特定した招聘・派遣プログラムは存在しない。ただし、日本側で都道府県費による日系子弟を対象とした留学制度や技術研修制度等のプログラムがあり、毎年100人強の若者が招聘されている。このプログラムでは工学・テクノロジー分野が多い。ブラジル側の派遣プログラムでは、日本関係の採用は非常に少ないため、日本での研究や芸術活動を希望する者は、国際交流基金のプログラム（ブラジルを特定してはいないが）に頼るケースが多い。日本関連プログラムとしての独自性は高い。
- ・カナダー日本：両国間で双方の国を特定した招聘・派遣プログラムは存在しない。カナダ側では派遣プログラムとしてカナダ社会・人文科学研究協議会（SSRC）やカナダ・カウンシルなどが運営するものがあるが、日本関連の採用件数は少ない。招聘プログラムとしては、日本関係の採用実績があるのはカナダ政府奨学金のみである。一方、日本側のプログラムとしては、カナダを特定してはいないが、国際交流基金のプログラムが研究者、芸術家等のフェローを招聘している実績があり、日本関連プログラムとしての独自性は顕著であり、かつ日本に特化したプログラムとしてのニーズも高い。
- ・中国ー日本：両国間で双方の国を特定した招聘・派遣プログラムは存在しない。しかし、日本側のプログラムを見ると、松下国際財団、富士ゼロックス小林節太郎記念基金、アジアセンターなどで派遣の実績を見ることが出来る。招聘では国際交流基金や日本学術振興会、文化庁など政府系機関のプログラムで実績がある。前述のとおり中国のプログラムは招聘・派遣ともほぼ中国政府によるものである。両国間では、日本から中国へのフェローシップに比べて（すでに民間ベースを含め多種多様に存在）、中国から日本へのフェローシップのほうが中国政府の高度人材養成政策を反映して、より重点がおかれている。
- ・米国ー日本：両国間には双方の国を特定した招聘・派遣プログラムが多く存在し、お互いを重要なパートナーとして捉えていることがわかる。2国間のプログラムを比較

すると、米国が特に派遣プログラムを重視していることが分かる。対象者も研究者から実務家まで幅広く、採用件数も多い。日本だけでなくアジア向けの招聘・派遣プログラムも多い。プログラムの多様性や本数から世界規模で人的・知的な交流を展開していることがわかる。一方日本側のプログラムも、日米教育委員会、日米センターなどがアメリカを特定して招聘・派遣プログラムを実施している。「第三章国別概要」の報告にもあるとおり、プログラムの本数もさることながら、提供する資金量を増加させることが今後の課題となる。

- ・韓国—日本：日本側のプログラムを見ると日韓文化交流基金など韓国を特定した招聘・派遣プログラムを提供し、アジア諸国向けのプログラムで実績があるのに対し、韓国側のプログラムでは、日本特定したものは見当たらない。「第三章国別概要」の報告にもあるとおり、研究者向けのプログラムにおいて給付額が低いこと、ジャーナリスト向けの完全公募制プログラムの数は少ないことが指摘されている。両国間の交流を促進するためにも、双方を特定したジャーナリスト、文化・芸術関係者、実務家向けのプログラムが求められる。
- ・フランス—日本：フランス側は、AFAA (Association Francaise d'Action Artistique) やルノー財団が日本を特定した招聘・派遣プログラムを用意し研究者、芸術家の交流を促進しているのに対し、日本側には、フランスを特定したプログラムが存在しない。しかし、研究者については大学間交流協定に基づく交換プログラムがかなり充実してきている。「第三章各国別概要」の報告にもあるが、両国間の文化関係者の交流を深めるプログラムの開発が求められている。

《注》次頁からの2国間（日本と諸外国）比較分析について：マトリックスでは、対象者別（研究者・博士課程・芸術家・実務家・ジャーナリスト）に各国のプログラムを分類し、2国間の国際的な知的・人的交流状況を示した。なお、ここでいう実務家とは、政府機関スタッフ（議員スタッフを含む）、民間非営利団体スタッフ、法律専門家等を意味する。

日本ードイツ間①

		派遣・招聘国特定 (特定の1国)	派遣・招聘地域特定 (幾つかの国・地域)	非 特 定
日本側の プログラム		日本からドイツへの派遣	日本から西欧諸国への派遣	日本からドイツ含む 全域への派遣
	研究者	16. DAAD (ドイツ学術交流会) 25. DAAD (ドイツ学術交流会)		21. 日本学術振興会 22. 日本学術振興会 23. 世界銀行 27. 国際交流基金
	研究者 (博士課程)			
	芸術家			3. 文化庁 4. 文化庁 26. 国際交流基金
	実務家			24. 世界銀行
	ジャーナリスト			
		ドイツから日本への招聘	西欧諸国から日本への招聘	ドイツを含む全域から 日本への招聘
	研究者	8. ドイツ日本研究所 10. 日本学術振興会	19. 日本学術振興会	6. 国際交流基金 18. 日本学術振興会 20. 日本学術振興会
	研究者 (博士課程)			7. 国際交流基金
	芸術家			1. 文化庁 2. 国際交流基金 5. 国際交流基金
実務家				
ジャーナリスト				

- | | | |
|---------------------------------------|---|--|
| 1. 海外新進芸術家招聘事業 | 16. 博士課程大学院生および若手研究者がドイツの大学あるいは研究所に留学するための奨学金 | 23. Joint Japan/World Bank Graduate Scholarship Program (JJ/WBGSP) |
| 2. 招聘フェロースhip (アーティスト・イン・レジデンス) | 18. 外国人特別研究員 | 24. Joint Japan/World Bank Graduate Scholarship Program (JJ/WBGSP) |
| 3. 新進芸術家海外留学制度 | 19. 外国人特別研究員 | 25. 日本人研究者のための1-3ヶ月の短期研究滞在 |
| 4. 新進芸術家海外留学制度 | 20. 外国人招聘研究者 (短期・長期) | 26. 派遣フェロースhip (芸術家) |
| 5. 招聘フェロースhip (芸術家) | 21. 特定国派遣研究者 | 27. 派遣フェロースhip (学者・研究者) |
| 6. 招聘フェロースhip (学者・研究者) | 22. 海外特別研究員 | |
| 7. 招聘フェロースhip (博士論文執筆) | | |
| 8. ドイツ日本研究所 博士号取得のための奨学金 | | |
| 10. 日本学術振興会 外国人研究者のためのポスドクター・フェロースhip | | |

日本ードイツ間②

		派遣・招聘国特定 (特定の1国)	派遣・招聘地域特定 (幾つかの国・地域)	非 特 定
ドイツ側の プログラム		ドイツから日本への派遣	ドイツからアジアへの派遣	ドイツから日本含む 全域への派遣
	研究者			1.ドイツ研究協会 3.クザヌスヴェルク司教学 術振興 4.ハニエル財団 ドイツ 民族学術財団 9.アレクサンダー・フォン・ フンボルト財団 14.フリードリヒ・エーベルト 財団 15.フリッツ・ティッセン財団 17.フォルクスワーゲン財団
	研究者 (博士課程)			
	芸術家			
	実務家			
	ジャーナリスト			
		日本からドイツへの招聘	アジアからドイツへの 招聘	日本を含む全域から ドイツへの招聘
	研究者			1.ドイツ研究協会 2.ハインリヒ・ベル財団 5.ゲルダ・ヘンケル財団 6.ハインリヒ・ヘルツ財団 11.ゴトリーブ・タイムプラー &カール・ベンツ財団 12.ハンス・ザイデル財団
	研究者 (博士課程)			13.フリードリヒ・ナウマン 財団
	芸術家			
	実務家			
	ジャーナリスト			

- | | | |
|---------------------------|--|----------------------------------|
| 1. 研究奨学金 | 2. 博士論文支援、学問
支援 | 4. ハニエル奨学金プロ
グラム |
| 3. 秀才育成 | | 6. ハインリヒ・ヘルツ
財団奨学金 |
| 9. フンボルト研究奨学金
プログラム | 5. (a)外国人研究者のため
の奨学金プログラム
(b)博士論文執筆の奨励 | 15. 博士課程後期若手研
究者のための研究奨
学金 |
| 11. 外国における研究活動 | 12. 外国人大卒者のため
の奨学金 | |
| 13. フリードリヒ・ナウマン財
団才能支援 | 14. 大卒者のための学問
振興 | |
| 17. フォルクスワーゲン財団
奨学金 | | |

日本-タイ間①

	派遣・招聘国特定 (特定の1国)	派遣・招聘地域特定 (幾つかの国・地域)	非 特 定
日本側の プログラム	日本からタイへの派遣	日本からアジア諸国への派遣	日本からタイ含む全域への派遣
	研究者	6. 富士ゼロックス小林節太郎記念基金 8. 松下国際財団 15. アジアセンター 7. 日本財団	1. 日本学術振興会 4. 日本学術振興会 9. 世界銀行 20. 国際交流基金
	研究者 (博士課程)	7. 日本財団	
	芸術家	7. 日本財団	14. 文化庁 21. 国際交流基金 13. 文化庁
	実務家	15. アジアセンター 7. 日本財団	10. 世界銀行
	ジャーナリスト		
	タイから日本への招聘	アジア諸国から日本への招聘	タイを含む全域から日本への招聘
	研究者	5. 日本学術振興会 7. 日本財団	2. 日本学術振興会 3. 日本学術振興会 17. 国際交流基金
	研究者 (博士課程)	7. 日本財団	19. 国際交流基金
	芸術家	7. 日本財団	11. 文化庁 12. 文化庁 16. 国際交流基金 18. 国際交流基金
	実務家	7. 日本財団	
	ジャーナリスト		

- | | | |
|----------------------|--|------------------------|
| 1. 海外特別研究員 | 9. Joint Japane/World Bank Graduate Scholarship Program | 17. 招聘フェロシップ (学者・研究者) |
| 2. 外国人特別研究員 | | 18. 招聘フェロシップ (芸術家) |
| 3. 外国人招聘研究者 | 10. Joint Japane/World Bank Graduate Scholarship Program | 19. 招聘フェロシップ (博士論文執筆者) |
| 4. 特定国派遣研究者 | | 20. 派遣フェロシップ (学者・研究者) |
| 5. 論文博士号取得希者に対する支援事業 | 11. 海外新進芸術家招聘事業 | 21. 派遣フェロシップ (芸術家) |
| 6. 小林フェロシップ | 12. 優秀指導者特別指導形成 | |
| 7. 日本財団アジア・フェロシップ | 13. 新進芸術家海外留学制度 | |
| 8. 松下アジアスカラシップ | 14. 新進芸術家海外留学制度 | |
| | 15. 次世代リーダーフェロシップ | |
| | 16. 招聘フェロシップ(アーティスト・イン・レジデンス) | |

日本－タイ間②

		派遣・招聘国特定 (特定の1国)	派遣・招聘地域特定 (幾つかの国・地域)	非 特 定
タイ側の プログラム		タイから日本への派遣	タイからアジアへの派遣	タイから日本含む全域 への派遣
	研究者			
	研究者 (博士課程)			1.タイ政府
	芸術家			
	実務家			
	ジャーナリスト			
		日本かタイへの招聘	アジアからタイへの招聘	日本を含む全域から タイへの招聘
	研究者			
	研究者 (博士課程)			
	芸術家			
	実務家			
	ジャーナリスト			

1. タイ政府奨学金
プログラム

日本－イギリス間①

		派遣・招聘国特定 (特定の1国)	派遣・招聘地域特定 (幾つかの国・地域)	非 特 定
日本側の プログラム		日本からイギリスへの 派遣	日本から西欧諸国への 派遣	日本からイギリス含む 全域への派遣
	研究者			1. 日本学術振興会 5. 日本学術振興会 6. 世界銀行 16. 国際交流基金
	研究者 (博士課程)			
	芸術家			10. 文化庁 11. 文化庁 17. 国際交流基金
	実務家			7. 世界銀行
	ジャーナリスト			
		イギリスから日本への 招聘	西欧諸国から日本への 招聘	イギリス国を含む全域 から日本への招聘
	研究者	18. 大和日英基金		2. 日本学術振興会 3. 日本学術振興会 4. 日本学術振興会 13. 国際交流基金
	研究者 (博士課程)			15. 国際交流基金
	芸術家			8. 文化庁 9. 文化庁 12. 国際交流基金 14. 国際交流基金
	実務家			
ジャーナリスト				

- | | | |
|---|--------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 海外特別研究員 | 8. 海外新進芸術家招聘事業 | 16. 派遣フェローシップ
(学者・研究者) |
| 2. 外国人特別研究員 | 9. 優秀指導者特別指導形成 | 17. 派遣フェローシップ
(芸術家) |
| 3. 外国人特別研究員 | 10. 新進芸術家海外留学制度 | 18. 大和スカラシップ
Daiwa Scholarship |
| 4. 外国人招聘研究者 | 11. 新進芸術家海外留学制度 | |
| 5. 特定国派遣研究者 | 12. 招聘フェローシップ(アーティスト・イン・レジデンス) | |
| 6. Joint Japane/World
Bank Graduate
Scholarship Program | 13. 招聘フェローシップ
(学者・研究者) | |
| 7. Joint Japane/World
Bank Graduate
Scholarship Program | 14. 招聘フェローシップ
(芸術家) | |
| | 15. 招聘フェローシップ
(博士論文執筆者) | |

日本－イギリス間②

		派遣・招聘国特定 (特定の1国)	派遣・招聘地域特定 (幾つかの国・地域)	非 特 定
イギリス側の プログラム		イギリスから日本への 派遣	イギリスからアジアへ の派遣	イギリスから日本含む 全域への派遣
	研究者			5. The Leverhulme Trust
	研究者 (博士課程)			
	芸術家			1. The Arts Council of Northern Ireland 2. Wales Arts International
	実務家			
	ジャーナリスト			
		日本からイギリスへの 招聘	アジアからイギリスへ の招聘	日本を含む全域から イギリスへの招聘
	研究者	18. 大和日英基金		4. The British Council
	研究者 (博士課程)			
	芸術家			3. Arts Council England
	実務家			4. The British Council
ジャーナリスト			6. ロイターズ財団	

1. International Residency Awards Scheme : Self-arranged International Residencies
4. Cheveing Scholarship Programme (The British Council)

2. InterRecce (Wales Arts International)
5. Academic Networks (The Leverhulme Trust)

3. Grants for the Arts (Arts Council England)
6. Journalism Trainging /Study Award (at Green College, OxfordUniversity)

日本－ブラジル間①

		派遣・招聘国特定 (特定の1国)	派遣・招聘地域特定 (幾つかの国・地域)	非 特 定
日本側の プログラム		日本からブラジルへの 派遣	日本から南米諸国への 派遣	日本からブラジルを 含む全域への派遣
	研究者			1. 日本学術振興会 4. 日本学術振興会 5. 世界銀行 15. 国際交流基金
	研究者 (博士課程)			
	芸術家			9. 文化庁 10. 文化庁 18. 国際交流基金
	実務家			6. 世界銀行
	ジャーナリスト			
		ブラジルから日本への 招聘	南米諸国から日本への 招聘	ブラジルを含む全域 から日本への招聘
	研究者			2. 日本学術振興会 3. 日本学術振興会 12. 国際交流基金
	研究者 (博士課程)			14. 国際交流基金
	芸術家			7. 文化庁 8. 文化庁 11. 国際交流基金 13. 国際交流基金
実務家				
ジャーナリスト				

- | | | |
|---|--|---------------------------|
| 1. 海外特別研究員 | 8. 優秀指導者特別指導
形成 | 15. 派遣フェローシップ
(学者・研究者) |
| 2. 外国人特別研究員 | 9. 新進芸術家海外留学
制度 | 18. 派遣フェローシップ
(芸術家) |
| 3. 外国人招聘研究者 | 10. 新進芸術家海外留学
制度 | |
| 4. 特定国派遣研究者 | 11. 招聘フェローシップ
(アーティスト・イン・
レジデンス) | |
| 5. Joint Japane/World
Bank Graduate
Scholarship Program | 12. 招聘フェローシップ
(学者・研究者) | |
| 6. Joint Japane/World
Bank Graduate
Scholarship Program | 13. 招聘フェローシップ
(芸術家) | |
| 7. 海外新進芸術家招聘
事業 | 14. 招聘フェローシップ
(博士論文執筆者) | |

日本ーブラジル間②

		派遣・招聘国特定 (特定の1国)	派遣・招聘地域特定 (幾つかの国・地域)	非 特 定
ブラジル側の プログラム		ブラジルから 日本への派遣	ブラジルから アジアへの派遣	ブラジルから日本を含む全域への派遣
	研究者			1. ブラジル連邦政府教育省 3. ブラジル連邦政府教育省 5. ブラジル連邦政府教育省 6. サンパウロ州政府研究支援基金 7. サンパウロ州政府研究支援基金 8. サンパウロ州政府研究支援基金 9. ブラジル連邦政府学術技術発展協議会 12. ブラジル連邦政府学術技術発展協議会 13. ブラジル連邦政府学術技術発展協議会
	研究者 (博士課程)			2. ブラジル連邦政府教育省 10. ブラジル連邦政府学術技術発展協議会 11. ブラジル連邦政府学術技術発展協議会
	芸術家			16. Vitae財団 17. ブラジル連邦政府文化省 14. ブラジル連邦政府教育省 15. Vitae財団 18. ブラジル連邦政府文化省
	実務家			
	ジャーナリスト			
		日本かブラジルへの招聘	アジアからブラジルへの招聘	日本を含む全域からブラジルへの招聘
	研究者			
	研究者 (博士課程)			
	芸術家			
実務家				
ジャーナリスト				

- | | | |
|--|---|---|
| 1. Programa de Bolsa No Exterior/
Doutorado- Capes | 8. Participacao Em Evento No Exterior- Fapesp | 15. Bolsas Vitae De Musica |
| 2. Programa de Bolsa No Exterior/
Estagiode outorando | 9. Programa de Bolsa No Exterior/
Aperfeicoamento/
Especializacao- CNPq | 16. Bolsas Vitae De Artes |
| 3. Programa de Bolsa No Exterior/Estagio Pos- doutoral- Capes | 10. Programa de Bolsa No Exterior/Doutorado Sanduiche- CNPq | 17. Bolsa Virtuouse |
| 4. Programa de Bolsa No Exterior/Capes Mestrado - Especializa Cao- Graduacao | 11. Programa de Bolsa No Exterior/
Doutorado- CNPq | 18. Programa De Difusao Cultural-
Concessao De Passagens |
| 5. Participaca Em Evento No Exterior - Capes | 12. Programa de Bolsa No Exterior/Pos -
Doutorado- CNPq | |
| 6. Programa de Bolsa No Exterior/Fapesp | 13. Programa de Bolsa No Exterior/Estagio Senior-CNPq | |
| 7. Programa de Bolsa No Exterior/Fapesp Pesquisa- Pq- Ex | 14. Programa de Aperfeicoamento Em Artes No Exterior- Capes | |

日本－カナダ間①

	派遣・招聘国特定 (特定の1国)	派遣・招聘地域特定 (幾つかの国・地域)	非 特 定
日本側の プログラム	日本からカナダへの派遣	日本からアメリカ大陸 への派遣	日本からカナダを含む 全域への派遣
	研究者		1. 日本学術振興会 5. 日本学術振興会 6. 世界銀行 17. 国際交流基金
	研究者 (博士課程)		
	芸術家		10. 文化庁 11. 文化庁 18. 国際交流基金
	実務家		7. 世界銀行
	ジャーナリスト		
	カナダから日本への招聘	アメリカ大陸から日本 への招聘	カナダを含む全域から 日本への招聘
	研究者		15. 国際交流基金 2. 日本学術振興会 3. 日本学術振興会 4. 日本学術振興会 13. 国際交流基金
	研究者 (博士課程)		16. 国際交流基金
	芸術家		8. 文化庁 9. 文化庁 12. 国際交流基金 14. 国際交流基金
	実務家		
ジャーナリスト			

- | | | | |
|----------------|---|--|----------------------------|
| 1. 海外特別
研究員 | 2. 外国人特別研究員 | 9. 優秀指導者特別指導
形成 | 16. 招聘フェローシップ
(博士論文執筆者) |
| | 3. 外国人特別研究員 | 10. 新進芸術家海外留学
制度 | 17. 派遣フェローシップ
(学者・研究者) |
| | 4. 外国人招聘研究者 | 11. 新進芸術家海外留学
制度 | 18. 派遣フェローシップ
(芸術家) |
| | 5. 特定国派遣研究者 | 12. 招聘フェローシップ
(アーティスト・イン・
レジデンス) | |
| | 6. Joint Japane/World
Bank Graduate
Scholarship Program | 13. 招聘フェローシップ
(学者・研究者) | |
| | 7. Joint Japane/World
Bank Graduate
Scholarship Program | 14. 招聘フェローシップ
(芸術家) | |
| | 8. 海外新進芸術家招聘
事業 | 15. 招聘フェローシップ
(短期フェローシップ) | |

日本-カナダ間②

	派遣・招聘国特定 (特定の1国)	派遣・招聘地域特定 (幾つかの国・地域)	非 特 定
カナダ側の プログラム	カナダから日本への派遣	カナダからアジアへの派遣	カナダから日本を含む 全域への派遣
	研究者		4. Social Science and Humanities Research Council of Canada (SSHRC)
	研究者 (博士課程)		1. Social Science and Humanities Research Council of Canada (SSHRC) 2. Canada Bureau for International Education (CBIE) 3. Canada Bar Association
	芸術家		5. Canada Council for the Arts 6. The Canada Council for the Arts 7. The Canada Council for the Arts 8. The Canada Council for the Arts 9. The Council for the Arts 10. The Council for the Arts 12. Elizabeth Greenshields Foundation
	実務家		
	ジャーナリスト		
	日本からカナダへの招聘	アジアからカナダへの招聘	日本を含む全域から カナダへの招聘
	研究者		16. International Council for Canadian Studies (ICCS) 17. International Council for Canadian Studies (ICCS) 18. International Council for Canadian Studies (ICCS) 19. International Council for Canadian Studies (ICCS)
	研究者 (博士課程)		13. International Council for Canadian Studies (ICCS) 14. International Council for Canadian Studies (ICCS) 15. International Council for Canadian Studies (ICCS)
	芸術家		
実務家			
ジャーナリスト			

- | | | |
|---|--|--|
| 1. SSHRC Doctoral Fellowships | 9. Grants to Theatre Artists | 17. Faculty Enrichment
Award Program |
| 2. J Armand Bombardier
International Fellowship | 10. Grants To Professional
Artists—Visual Arts | 18. National Capital
Research Scholarship |
| 3. Viscount Benette Fellowship | 11. Grants for Professional
Writers(Creative Writing) | 19. Canada—Asia Pacific
Awards |
| 4. SSHRC Postdoctoral Fellowship | 12. Elizabeth Greenshields
Fellowship | |
| 5. Grants To Dance Professionals | 13. Graduate Student Scholarships | |
| 6. Grants To Film and Video Artists | 14. Government of Canada Awards | |
| 7. Grants to New Media and Audio
Artists : Research Grants | 15. Doctoral Student Research
Program | |
| 8. Grants to Professional
Musicians (Classical
Music Grants & Non—
Classical music Grants) | 16. Faculty Research Award
Program | |

日本－中国間①

	派遣・招聘国特定 (特定の1国)	派遣・招聘地域特定 (幾つかの国・地域)	非 特 定
日本側の プログラム	日本から中国への派遣	日本からアジア諸国への派遣	日本から中国含む全域への派遣
	研究者	7. 松下国際財団 14. アジアセンター	1. 日本学術振興会 4. 日本学術振興会 8. 世界銀行 19. 国際交流基金
	研究者 (博士課程)	6. 富士ゼロックス小林節太郎 記念基金	
	芸術家		12. 文化庁 13. 文化庁 20. 国際交流基金
	実務家	14. 国際交流基金	9. 世界銀行
	ジャーナリスト		
	中国から日本への招聘	アジア諸国から日本への招聘	中国を含む全域から日本への招聘
	研究者	5. 日本学術振興会	2. 日本学術振興会 3. 日本学術振興会 16. 国際交流基金
	研究者 (博士課程)		18. 国際交流基金
	芸術家		10. 文化庁 11. 文化庁 15. 国際交流基金 17. 国際交流基金
実務家			
ジャーナリスト			

- | | | |
|---|---|-------------------------|
| 1. 海外特別研究員 | 9. Joint Japane/World Bank Graduate Scholarship Program | 17. 招聘フェローシップ (芸術家) |
| 2. 外国人特別研究員 | 10. 海外新進芸術家招聘事業 | 18. 招聘フェローシップ (博士論文執筆者) |
| 3. 外国人招聘研究者 | 11. 優秀指導者特別指導形成 | 19. 派遣フェローシップ (学者・研究者) |
| 4. 特定国派遣研究者 | 12. 新進芸術家海外留学制度 | 20. 派遣フェローシップ (芸術家) |
| 5. 論文博士号取得希者に対する支援事業 | 13. 新進芸術家海外留学制度 | |
| 6. 小林フェローシップ | 14. 次世代リーダーフェローシップ | |
| 7. 松下アジアスカラシップ | 15. 招聘フェローシップ (アーティスト・イン・レジデンス) | |
| 8. Joint Japane/World Bank Graduate Scholarship Program | 16. 招聘フェローシップ (学者・研究者) | |

日本－中国間②

		派遣・招聘国特定 (特定の1国)	派遣・招聘地域特定 (幾つかの国・地域)	非 特 定
中国側の プログラム		中国から日本への派遣	中国からアジアへの派遣	中国から日本含む全域 への派遣
	研究者			1. 中国国家留学基金管 理委員会
	研究者 (博士課程)			
	芸術家			
	実務家			
	ジャーナリスト			
		日本か中国への招聘	アジアから中国への招聘	日本を含む全域から 中国への招聘
	研究者			
	研究者 (博士課程)			2. 中国国家留学基金管 理委員会
	芸術家			
	実務家			
	ジャーナリスト			

1. 中国国家留学基金助成 2. 中国政府奨学金

日本－アメリカ間①

		派遣・招聘国特定 (特定の1国)	派遣・招聘地域特定 (幾つかの国・地域)	非 特 定
日本側の プログラム		日本からアメリカへの 派遣	日本から北米への派遣	日本からアメリカ含む 全域への派遣
	研究者	6. 日米教育委員会 11. 日米教育委員会 18. 国際交流基金	12. 富士ゼロックス 小林節太郎記念基金	1. 日本学術振興会 5. 日本学術振興会 15. 世界銀行 23. 国際交流基金 25. 国際交流基金
	研究者 (博士課程)			
	芸術家			10. 文化庁 8. 文化庁 24. 国際交流基金
	実務家	16. 国際交流基金 18. 国際交流基金		14. 世界銀行
	ジャーナリスト	7. 日米教育委員会 18. 国際交流基金		
		アメリカから日本への 招聘	北米から日本への招聘	アメリカを含む全域か ら日本への招聘
	研究者	11. 日米教育委員会 18. 国際交流基金	17. 国際交流基金	2. 日本学術振興会 3. 日本学術振興会 4. 日本学術振興会 20. 国際交流基金
	研究者 (博士課程)			19. 国際交流基金
	芸術家			9. 文化庁 13. 文化庁 21. 国際交流基金 22. 国際交流基金
実務家	18. 国際交流基金			
ジャーナリスト	18. 国際交流基金			

- | | | |
|--------------------------------|--|----------------------------|
| 1. 海外特別研究員 | 13. 海外新進芸術家招聘事業 | 23. 派遣フェロースhip
(学者・研究者) |
| 2. 外国人特別研究員 | 14. Joint Japan/World Bank
Graduate Scholarship
Program (JJ/WBGSP) | 24. 派遣フェロースhip
(芸術家) |
| 3. 外国人特別研究員(欧米) | 15. Joint Japan/World Bank
Graduate Scholarship
Program (JJ/WBGSP) | 25. 小淵フェロースhip |
| 4. 外国人招聘研究者(短期・長期) | 16. 日米センターNPOフェロースhip | |
| 5. 特定国派遣研究者 | 17. 招聘フェロースhip
(短期フェロースhip) | |
| 6. フルブライト奨学金大学院博
士論文研究プログラム | 18. 日米センター安倍フェロースhip | |
| 7. フルブライト奨学金ジャー
ナリストプログラム | 19. 招聘フェロースhip
(博士論文執筆者) | |
| 8. 新進芸術家海外留学制度 | 20. 招聘フェロースhip
(学者・研究者) | |
| 9. 優秀指導者特別指導助成 | 21. 招聘フェロースhip
(芸術家) | |
| 10. 新進芸術家海外留学制度 | 22. 招聘フェロースhip (アー
ティスト・イン・レジデンス) | |
| 11. フルブライト奨学金研
究員プログラム | | |
| 12. 小林フェロースhip | | |

日本－アメリカ間②－1

		派遣・招聘国特定 (特定の1国)	派遣・招聘地域特定 (幾つかの国・地域)	非 特 定
		アメリカから日本への 派遣 (団体名)	アメリカからアジアへ の派遣 (団体名)	アメリカから日本を含む 全域への派遣 (団体名)
アメリカ側の プログラム	研究者	4. Asian Cultural Council 13. Council for International Exchange of Scholars 22. Japan Society 28. Social Science Research Council and the American Council of Learned Societies	1. Asian Cultural Council 3. Asian Cultural Council 6. Asian Cultural Council 16. Council for International Exchange of Scholars	14. Council for International Exchange of Scholars 15. Council for International Exchange of Scholars
	研究者 (博士課程)	7. Center for Advanced Study in the Visual Arts 11. Center for Advanced Study in the Visual Arts		21. Institute of International Education 8. Center for Advanced Study in the Visual Arts 11. Center for Advanced Study in the Visual Arts
	芸術家	4. Asian Cultural Council 15. Council for International Exchange of Scholars 25. Japan United States Friendship Commission, International House of Japan. Inc.	1. Asian Cultural Council 6. Asian Cultural Council	14. Council for International Exchange of Scholars
	実務家	15. Council for International Exchange of Scholars 27. Mansfield Center for Pacific Affairs 19. Council on Foreign Relations 22. Japan Society 24. Japan-U.S. Community Education and Exchange		14. Council for International Exchange of Scholars 15. Council for International Exchange of Scholars
	ジャーナリスト	15. Council for International Exchange of Scholars 23. Japan Society		

日本－アメリカ間②－ 2

		派遣・招聘国特定 (特定の1国)	派遣・招聘地域特定 (幾つかの国・地域)	非 特 定
		日本からアメリカへの 招聘 (団体名)	アジアからアメリカへ の招聘 (団体名)	日本を含む全域からアメ リカへの招聘 (団体名)
アメリカ側の プログラム	研究者	4. Asian Cultural Council 29. The Henry L. Stimson Center	2. Asian Cultural Council (Ford Foundation Fellowship Program) 12. Center for Advanced Study in the Visual Arts, National Gallery of Art (Starr Foundation)	9. Center for Advanced Study in the Visual Arts 17. Council for International Exchange of Scholars 18. Council for International Exchange of Scholars 20. Institute of International Education 26. John W.Kluge Center
	研究者 (博士課程)			
	芸術家	4. Asian Cultural Council	2. Asian Cultural Council (Ford Foundation Fellowship Program) 5. Asian Cultural Council (Starr Foundation)	10. Center for Advanced Study in the Visual Arts 17. Council for International Exchange of Scholars 18. Council for International Exchange of Scholars
	実務家	29. The Henry L. Stimson Center		17. Council for International Exchange of Scholars 18. Council for International Exchange of Scholars
	ジャーナリスト	29. The Henry L. Stimson Center		30. The Nieman Foundation for Journalism at Harvard University

1. Asian Art and Religion Fellow
2. Ford Foundation Fellowship Program
3. Humanities Fellowship
4. Japan-United States Arts Program
5. Starr Foundation Fellowship Program
6. Asian Cultural Council Residency Program
7. The Itteson Fellowship
8. Predoctoral Fellowship Program for Travel Abroad
9. The Paul Mellon and Ailsa Mellon Bruce Senior Fellowships
10. The Frese Senior Fellowship
11. The Andrew W. Mellon Fellowship
12. Starr Foundation Visiting Senior Research Fellowship
13. Fulbright Traditional Scholar Program
14. Fulbright Senior Specialists Program
15. Fulbright New Century Scholars
16. Fulbright International Education Administrators
17. Fulbright Visiting Scholar
18. Worldwide Fulbright Scholar
19. International Affairs Fellowship in Japan
20. Fulbright Scholar Non-US
21. Fulbright Scholar Program Japan Grant for U.S. Grad. Students
22. Japan Society Local Government and Public Policy
23. US-Japan Media Foundation Media Fellows
24. Nichibei Pathfinding Opp.
25. US/Japan Creative Artists
26. Kluge Center Fellowships
27. Mike Mansfield Fellowships
28. JSPS Postdoctoral Fellowship
29. Visiting Japanese Security
30. Nieman Fellowship

日本－韓国間①

		派遣・招聘国特定 (特定の1国)	派遣・招聘地域特定 (幾つかの国・地域)	非 特 定
日本側の プログラム		日本から韓国への派遣	日本からアジア諸国への派遣	日本から韓国含む全域への派遣
	研究者	6. 日韓文化交流基金	7. 富士ゼロックス小林節太郎記念基金 8. 松下国際財団 15. 国際交流基金	1. 日本学術振興会 4. 日本学術振興会 9. 世界銀行 20. 国際交流基金
	研究者 (博士課程)			
	芸術家			14. 文化庁 13. 文化庁 21. 国際交流基金
	実務家		15. 国際交流基金	10. 世界銀行
	ジャーナリスト			
		韓国から日本への招聘	アジア諸国から日本への招聘	韓国を含む全域から日本への招聘
	研究者	6. 日韓文化交流基金	5. 日本学術振興会	2. 日本学術振興会 3. 日本学術振興会 17. 国際交流基金
	研究者 (博士課程)			19. 国際交流基金
	芸術家			11. 文化庁 12. 文化庁 16. 国際交流基金 18. 国際交流基金
実務家				
ジャーナリスト				

- | | | |
|--------------------------------|--------------------------------------|-------------------------|
| 1. 海外特別研究員 | 9. Joint Japane/World Bank Graduate | 17. 招聘フェローシップ (学者・研究者) |
| 2. 外国人特別研究員 | Scholarship Program | 18. 招聘フェローシップ (芸術家) |
| 3. 外国人招聘研究者 | 10. Joint Japane/World Bank Graduate | 19. 招聘フェローシップ (博士論文執筆者) |
| 4. 特定国派遣研究者 | Scholarship Program | 20. 派遣フェローシップ (学者・研究者) |
| 5. 論文博士号取得希者に対する支援事業 | 11. 海外新進芸術家招聘事業 | 21. 派遣フェローシップ (芸術家) |
| 6. 日韓文化交流基金招聘フェローシップ、派遣フェローシップ | 12. 優秀指導者特別指導形成 | |
| 7. 小林フェローシップ | 13. 新進芸術家海外留学制度 | |
| 8. 松下アジアスカラシップ | 14. 新進芸術家海外留学制度 | |
| | 15. 次世代リーダーフェローシップ | |
| | 16. 招聘フェローシップ (アーティスト・イン・レジデンス) | |

日本－韓国間②

		派遣・招聘国特定 (特定の1国)	派遣・招聘地域特定 (幾つかの国・地域)	非 特 定
韓国側の プログラム		韓国から日本への派遣	韓国からアジアへの派遣	韓国から日本含む全域 への派遣
	研究者			1. 韓国学術支援事業 3. 韓国高等教育財団 5. LGヨンナム文化財団 19. Korean Foundation
	研究者 (博士課程)			2. 韓国高等教育財団 4. 大山文化財団 16. 国際教育振興院 6. クンジョン・イジョ ンファン教育財団
	芸術家			7. 韓国文化芸術振興院
	実務家			
	ジャーナリスト			8. Korea Press Foundation 9. LGサンナム言論財団 10. LGサンナム言論財団 11. 三星言論財団 12. 省谷言論文化財団
		日本から韓国への招聘	アジアから韓国への招聘	日本を含む全域から韓 国への招聘
	研究者			13. Korean Foundation 14. Korean Foundation 20. Korean Foundation (21) 延世大学
	研究者 (博士課程)			13. Korean Foundation 14. Korean Foundation 17. ソナム学術奨学財団 15. Korean Foundation
	芸術家			
実務家				
ジャーナリスト			(22) 方一栄財団	

1. 海外韓国学支援事業
韓国籍指定なし
2. 海外留学奨学制度
3. 東洋学研究奨学制度
4. 韓国文学専攻大学院奨学金
韓国籍指定なし
5. 教授海外研究支援事
業韓国籍指定なし
6. 国外留学奨学金
7. 文化芸術海外交流支援
韓国籍指定なし

8. 一般海外研修
9. 海外研修
10. 語学研修
11. 言論人海外研修フェ
ローシップ
12. 海外言論人研修
13. 韓国語研修フェロー
シップ
14. 滞韓研究フェローシップ

15. 韓国学専攻大学院生奨学制度
16. 大韓民国政府招請外
国人奨学生
17. 外国学生国内留学支援事業
18. 日本人留学生奨学生制度
19. 博士後期課程フェローシップ
韓国籍指定なし
20. 重鎮学者研究支援
※外国韓国研究者支援
(海外での研究活動を支援)
- (21) 外国人博士後研究員
研究支援事業
(延世大学)
- (22) 方一栄フェローシップ

日本－フランス間①

		派遣・招聘国特定 (特定の1国)	派遣・招聘地域特定 (幾つかの国・地域)	非 特 定
日本側の プログラム		日本からフランスへの 派遣	日本から西欧諸国への 派遣	日本からフランス含む 全域への派遣
	研究者			1. 日本学術振興会 5. 日本学術振興会 6. 世界銀行 16. 国際交流基金
	研究者 (博士課程)			
	芸術家			10. 文化庁 11. 文化庁 17. 国際交流基金
	実務家			7. 世界銀行
	ジャーナリスト			
		フランスから日本への 招聘	西欧諸国から日本への 招聘	フランスを含む全域 から日本への招聘
	研究者			4. 日本学術振興会 13. 国際交流基金
	研究者 (博士課程)			2. 日本学術振興会 3. 日本学術振興会 15. 国際交流基金
	芸術家			12. 国際交流基金 14. 国際交流基金
	実務家			8. 文化庁 9. 文化庁
	ジャーナリスト			

- | | | |
|---|---|---------------------------|
| 1. 海外特別研究員 | 7. Joint Japane/World
Bank Graduate
Scholarship Program | 15. 招聘フェロシップ
(博士論文執筆者) |
| 2. 外国人特別研究員 | 8. 海外新進芸術家招聘事業 | 16. 派遣フェロシップ
(学者・研究者) |
| 3. 外国人特別研究員 | 9. 優秀指導者特別指導形成 | 17. 派遣フェロシップ
(芸術家) |
| 4. 外国人招聘研究者 | 10. 新進芸術家海外留学制度 | |
| 5. 特定国派遣研究者 | 11. 新進芸術家海外留学制度 | |
| 6. Joint Japane/World
Bank Graduate
Scholarship Program | 12. 招聘フェロシップ
(アーティスト・イン・
レジデンス) | |
| | 13. 招聘フェロシップ
(学者・研究者) | |
| | 14. 招聘フェロシップ
(芸術家) | |

日本－フランス間②

		派遣・招聘国特定 (特定の1国)	派遣・招聘地域特定 (幾つかの国・地域)	非 特 定
		フランスから日本への派遣	フランスからアジアへの派遣	フランスから日本含む全域への派遣
フランス側のプログラム	研究者			17. ポワトゥー・シャラント県議会 20. フィッサン財団
	研究者 (博士課程)			1. フランス外務省 2. 大学総長会議 8. 教育研究技術省 16. ポワトゥー・シャラント県議会 18. ロワール県議会 19. ソヌ・エ・ロワール県議会 9. 教育研究技術省
	芸術家	3. AFAA (Association Francaise d'Action Artistique)		4. AFAA (Association Francaise d'Action Artistique) 5. AFAA (Association Francaise d'Action Artistique) 22. アシェット財団 6. AFAA (Association Francaise d'Action Artistique)
	実務家			
	ジャーナリスト			21. アシェット財団
		日本からフランスへの招聘	アジアからフランスへの招聘	日本を含む全域からフランスへの招聘
	研究者	23. ルノー財団 24. ルノー財団		10. 教育研究技術省 12. ブルターニュ県議会 13. ブルターニュ県議会 14. ブルターニュ県議会 15. ブルターニュ県議会 11. 教育研究技術省
	研究者 (博士課程)			
	芸術家			7. AFAA (Association Francaise d'Action Artistique)
	実務家			
ジャーナリスト				

- | | | |
|--|--|--|
| 1. Programme Lavoisier | 11. Accueil de jeunes chercheurs etrangers en sejour de recherche post-doctorale | 21. Bourse Jeune de Journaliste de Presse Ecrite |
| 2. College doctoral franco-japnais | 12. Mobilite des chercheurs | 22. Bourse Jeune Reporter Photographe |
| 3. Les Residences | 13. Renouvellement des competences dans les laboratoire de recherche | 23. ルノープログラム |
| 4. Villa Medici Hors les Murs | 14. Renouvellement des competences dans les laboratoire de recherche | 24. ルノー財団バリ国際MBA |
| 5. L'Envers Des Villes | 15. Mobilite des chercheurs | |
| 6. En Quete d'Auteurs | 16. Bourses de Formation en Europe et International | |
| 7. Cite Internationale des Arts | 17. Bourse de Chercheur invite etrangers en France, sejour scientifique de haut niveau | |
| 8. Programme (Aires Culturelles) | 18. Bourses de Sejours d'Etudes a l'Etranger | |
| 9. Programme (Cotutelle de these) | 19. Bourse departementale d'Enseignement Superieur | |
| 10. Accueil des chercheurs etrangers en France, sejour scientifique de haut niveau | 20. Bourses d'Etudes Post-Docorales | |